

学校法人庄内神社学園 庄内こどもの杜幼稚園

令和5年度 学校自己評価結果

学園の存在意義：日本的な教育・保育で、次代を担う人材育成をする

学園が目指す次代を担う人材像：「みんなのなかでやりたいことをする人」

学園の使命・目標：園の教育・保育を通じて、子ども、保護者、教職員が、新しい社会を支える
「みんなの中で、やりたいことができる人」になる

学園の理想像・方向性：「みんなの中で、やりたいことができる人」が溢れる園に

学園の行動指針：「社会性」をつける：チームをポジティブに機能させる能力、自分やチームをポジティブに向かわせる人間性
「専門性」をつける：・自分やチームをポジティブに向かわせる人間性

本年度、重点的に取り組む目標や計画

- ・保育向上のミーティングや環境準備をするための業務の改善や人事改革
- ・意義を再確認しながら保育の質向上施策の実施

評価項目

評価項目と目的	内容
○教育課程・指導 【意義を再確認したアフターコロナの行事運営検討】 ・アフターコロナ後の行事運営	・コロナ中から引き続き行事を見直した結果、入園進級式、誕生祭、お神輿巡行だけでなく、他の行事もさらに良くするための見直しが出来た。 今まで作り続けてきた行事進行マニュアルが整備され、スムーズに運営できた。
【保育向上をする対話や準備をする時間捻出】 ・保育向上のミーティングや環境準備をするための業務再編成	・保育向上のミーティングや環境準備をするため、今ある園配布物（ポートフォリオ、ドキュメンテーション、クラスだより、行事だより等）の意義を踏まえた再編成をすることで、以前よりは時間的な余裕が生まれた。 しかし長時間児の増加傾向もあるなか引き続き検討改善を続ける必要がある。
○保健管理 【withコロナの生活構築】 ・現在示されているコロナの考えを踏まえた、新たな教育・保育効果を高める生活検討	・コロナ対策をきっかけに、自然と手洗いうがいの習慣が身に付き、給食配膳の際にマスク着用する習慣も継続実施した。
○安全管理 【惰性とならない避難訓練や対策】 ・毎月行う避難訓練を、基準に準じながらも様々な非常事態を想定して実施	・ルーティンになりがちな避難訓練を、トップリーダーや担当が不在などの、イレギュラー想定を考えた避難訓練を実施して、放送係や人数集約担当を様々な人が行った。 引き続き誰でも担えるような実施と、マニュアルの再チェックと整備をし続ける。
○組織運営 【キャリアパスの改定】 ・それぞれのキャリアに応じた役割を明確にして人材育成を促進	・表のおかげで自分の役割がわかりやすいという意見がある一方、まだ改訂版初年度なのでしっかり周知できたとは言い難い。 引き続き、周知と活用を続けてキャリアを意識した自己評価の推進をする。
【園内業務のデジタル化】 ・保護者向け文書のデジタル化	・事務作業の効率化や、子どもが落とすこともなくなり、保護者への渡しそびれが減った。 ・忘れ物なども配信され、持ち主が見つかることが多くなった。 ・今後もよりデジタル化を促進すると共に、ネットワークトラブルがあった際の対応を合わせて検討する。
○研修（資質向上の取組） 【園内研修の改善と園外研修の促進】 ・造形や環境の視点をテーマにした研修・研究 ・新たな改善視点を入れた園内公開保育の実施 ・諸団体への実践発表 ・キャリアパスに応じた研修の実施 ・子どもの育ちの評価力の向上	・「造形表現活動経験のめやす」を改定しながら実践学会で発表する中で、園としてのあり方を見直せただけでなく、他園の生活の流れやどんな玩具を作っているか、新たな考え方等を知る機会が持てた。 ・研修も現在実施している内容の意味や良さを保ちつつ、さらに学びとなるテーマや実施方法の改善案を検討する。 ・園の記録様式の変更をしてクラス懇談説明形式を合わせたことで、今の子どもの姿を自分の言葉で保護者や職員に話げできた。
○教育目標・学校評価 【大私幼ECEQ®（公開保育）を通じた園の再評価】 ・大私幼ECEQ®の評価を通じて、外部の目線から園の良さや課題を再確認	・大私幼ECEQ®の評価を通じて他園の先生に保育を見てもらい、環境構成や自分にとって新しい保育のアイデアや考え方を得ることができた。
○保護者・地域住民との連携 【乳児クラス懇談の回数変更】 ・在園児保護者も親として学べる交流を推進する為の乳児クラスのクラス懇談の増加	・乳児クラスでクラス懇談を増加したことで、2学期までの子どもの成長した姿を踏まえて、保護者に気付きと保護者間の交流ができた。

<p>○教育環境整備 【新ウェアの初年度の導入状況確認】 ・新たに始まった新ウェアの円滑な導入</p> <hr/> <p>【機器備品】 ・今年度末契約期限の来るタイムカードシステムの効率化を含めた再検討 ・遊具、絵本、機器備品の整備</p>	・特に保護者からは新ウェアに関するネガティブな意見は聞かれはない。 ・園外保育の目印となる職員用ジャンバーを作成する。 ・令和6年のからのタイムカードシステム変更に向けて、他の業務と紐づけされ業務省力化をするための道筋がつけられた。 ・適宜必要な遊具、絵本、機器備品を購入しつつ、園庭遊具のリニューアルもできた。
---	---

【財務の状況】
現在のところ、公認会計士より適正に運用されていると報告を受けている。

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
おおむね良好であった	・昨年度の振り返りをもとに今年度計画した事は、おおむね予定通り実施できた。 ・保護者アンケートでも、おおむね良好な評価を得ることが出来た。

6. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
・教育課程・指導 ・教育環境整備	組織的に保育の質向上ができる仕組みづくり 業務改善するための新たなITシステムの円滑な運用

7. 学校関係者の評価

保護者会もデジタル化した。働いている人でもやりやすくなった。働いている人の視点も持った運営ができやすくなった。ケンカを仲裁する姿が見られた。
自主的に活動していた。朝の会も自分でやっていた。『みんなの中で、やりたいことをする』という事が、根づいている。
目的の確認は、行事するにしても何にしても、大切な事
「やりたい事をしていく」という意欲を育てる事は、小学校も意識していくことが大切
6月に伺った頃に比べて、今年年長は落ち着いていて、こちらを見る事もなし、1年経つという成長の大きさを感じた。自分たちですという事の大切さを感じた。
アプリを使用し、うまく進んでいると感じた。